

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	にじいろスクエア・せとうち 児童発達支援センターひよこ		
○保護者評価実施期間	令和6年11月4日		～ 令和6年12月4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	1回目：令和6年9月14日～9月30日		～ 2回目：令和7年2月1日～令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・利用初年度から母子分離で毎日通うことが可能 ・毎日通園と並行通園があり、毎日通園後に園に入園した場合も、並行通園で継続して療育が可能。 ・療育と保育所等訪問支援を受けることで地域の園での生活のしやすさにつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面や健康面について送迎時や連絡帳等で必ず保護者と共有している。 ・栄養バランスや摂食機能を考慮した給食の提供。 ・地域の園とのつながりを深められるよう保育所等訪問支援を丁寧に行っている。（園との話し合いや相談にも応じている） 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く保護者が安心して預けることができるよう、延長支援を実施する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に地域の障害児通所支援事業者や関係機関と話し合いや情報共有できる機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有の際に挙げた課題を自立支援協議会で提起している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な情報共有の場からさらに研修会等の場を企画する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうだい家族が参加できる「わくわく広場」を設け、家族が参加できる機会があること 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段話す機会の少ない保護者やきょうだい児同士のコミュニケーションが図れるよう活動内容の工夫や活動場所の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催頻度や活動内容・活動場所の見直しを行い、継続して子育てサポートの機会を作っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職の職種が少ないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援スタッフは保育士と児童指導員の配置しかなく、専門的な分野からの直接的なアプローチができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士等の専門職を配置し、専門的支援実施を目指す。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・太田ステージ評価のアセスメントツールしか導入できていないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント評価できる職員が他事による不在が多くアセスメント研修が進まなかった。 言語認知の領域だけではなく、社会生活スキルのや遊び方、行動面からのアセスメントしていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・SM社会生活能力検査、遠城寺式を取り入れ、社会生活スキルの評価、発達全体の評価を行う。 ・またいずれPEP-3を取り入れられるよう他事業所の見学を行い、導入できるよう準備していく
3	<ul style="list-style-type: none"> ・月の便りは毎月発行したが、情報発信が定期的に出ていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人ブログはあるが、計画が曖昧であったため発信が遅れたり中身の検討ができていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当センターで完結できるブログやインスタブログの運用を行う ・定期的に情報発信できるよう、インスタブログ等のSNSを担当明確にし取り組む。